FEB 2013, №1

日本創造学会

JCSNEWSLETTER

第35回日本創造学会研究大会は 2013年10月26日−27日に開催されます。

実行委員長：澁谷貞子

●大会テーマ●

「ひと・もの・ことが創りだす思草　ー創造的支援 ー」

会場：日本医療科学大学

思草（しぐさ）とは江戸のことばです。思う、思いはこころ、草は行動、思いを 即行動にしている各界の人々に集まっていただき、その実践を紹介していただきます。その貴重な実践にどのような創造的支援ができるのか、この大会では考えてみたいと思います。

埼玉の地、川越でまちづくりを実践している人、アジアから思いを実践で示している方などをお呼びしてその輪を広げていきたいと思っています。

大　会　要　項

参加方法　：　学会事務局までメールまたはFAXで参加申込書を送付ください。
（参加申込書フォームは事務局にメールでご請求下さい。）

発表申込　：　申込書を記入の際に発表申込欄にご記入ください。発表要項をお送りします。

日　程　：　2013年10月26日（土）～27日（日）

会　場　：　日本医療科学大学（所在地 埼玉県入間郡毛呂山町下川原1276）

内　容　：　講演会・懇親会・研究発表など

発表・参加申込の締切 ： 7月末日　研究発表論文の締切 ： 8月末日（厳守）

〈発表論文掲載料〉

①原稿（A4, 1680字）×4枚：2000円
②1枚追加ごとに1000円

※論文の査読は特にありませんが、論文執筆要綱に従った形式で投稿して下さい。事務局への訂正の依頼等は受け付けられませんので、ご了承ください。

〈大会参加費〉

	正会員	学生会員	非会員
事前払込み／	3000円	2500円	4000円
当日払い　／	4000円	3000円	5000円

詳細プログラムは5月のニューズレターに掲載予定です。ご発表準備と参加日程を確認ください。

◆◆◆創造性研究会報告◆◆◆

第24回研究会テーマ：
「私の海外研修報告　スウェーデン教育・福祉の現在」

開催日：2012年12月15日
講　師：　西浦和樹氏　　宮城学院女子大学　発達臨床学科教授（教育心理学）

大入りの聴衆の研究会となったが、西浦先生の家族でのスウェーデン体験滞在記は、スウェーデンの教育の制度を、先生のみならず、家族全員が楽しく体験留学されたのがよく分かった。

まず開講一番、OECDの良い生活（Better Life Index）の世界各国比較で、スウェーデンはトップにあることから説明が始まった。滞在先は、リンショーピング市のリンショーピング大学で、首都ストックホルムから車で南西に2時間。都市の人口が13万人。1年弱の滞在に借りた家がすごく広い！庭が広い！庭のサクランボが食べ放題！庭をかわいいハリネズミが走る。家族での生活を心から楽しんだという。たくさんの写真から、家族の幸せがあふれていた。

スウェーデンの教育制度の説明も詳しくされたが、家族の子供たちの現地でのビョンシャー小学校への編入と同化が興味深かった。サッカークラブ、バイオリンのスズキメソッドなども、参加されていた。おもしろいのはSFI（Swedish for Immigrants)による移民教育だった。

リンショーピング市の大学を基点に、西浦先生は、スウェーデン国内の様々な学校をどんどん訪問された。ストックホルムまでは、子供たちのために、日本人補習校に通い、ヨーテボリの小学校、マルメ、ヘルシンボリの自然学校、ヒルテの小学校など。またECP2011(European Congress of Psychology in Istanbul)にも参加されたという。

スウェーデンに滞在された印象として：
（1）体育：　日本の方が上位　（2）数学：　日本の方が上位　（3）英語：　スウェーデンが上位
（4）理科　　分からない　（5）論理的思考力、創造的思考力、批判的思考力などすべてスウェーデンが進んでいるとのこと。

また、アウトドア環境教育が一般的だ。生きる力を育むアウトドア教育。とにかく体験と経験主義の教育が徹底している。とにかく科学技術基礎概念の理解度は、世界一のスウェーデン（日本は13位）での教育制度を家族で体験された西浦先生の話は楽しかった。

家族生活体験式研究発表であっという間の時間が過ぎた。西浦先生の滞在もあっという間に1年が過ぎたという。それだけ楽しかったのだろう。　　（報告：樋口健夫理事）

第25回研究会テーマ：
「デザイン思考の世界的潮流と慶應SDMの取り組み」

開催日：2013年1月26日
講　師：前野隆司氏　**慶應義塾大学大学大学院**
システムデザイン・マネジメント研究科
研究科委員長・教授

前野隆司氏は東京工業大学卒業。キヤノンに入社し、開発経験の後、UCLA、慶応義塾大学、ハーバード大を経て、現在、慶応義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科委員長である。

本研究の目的はイノベーティブな商品やサービス開発の一手法の開発である。米国IDEOやスタンフォード大学d.schoolに始まった「デザイン思考」に、独自の視点を加え、より実践的な手法を研究している。その特徴が「システム思考」と「デザイン思考」の融合である。システム思考のVモデルに見られるような体系的な分析・統合モデルに、デザイン思考の3要素であるObservation,Ideation,Empathyを有機的に結合している。その方法として、分析・統合思考だけで対象を見るのではなく、広い視野で観察、発散と収束を繰り返した上で、共感のためのプロトタイピングをする工程と、そのプロットタイプから、より具体的な商品やサービスを、グループワークを通して連想、発想してゆく。この集合型討議でアイデアを止揚させ、具体的な商品構成に導いてゆくが、そのファシリテーションにノウハウが蓄積される。

デザイン思考ではある意味、東洋的な一元思考が伺え、右脳をフル活用するようにプロセスが出来ている。研究成果の一例である2×2欲求マトリックス法では、飲料水の売り上げの一部を寄付する事業モデルについて、単に売買の事業モデルに留まらず、寄付と社会貢献の行為が事業と有機的に関連していることも導き出されている。

研究の実証に当たっては、学内のみならず、企業との共同研究、地域への教育的貢献など幅広く活動されている。

（報告：田村新吾理事）

第1回日本創造学会若手の会（ユースフェロー）活動報告

任命理事　西浦和樹

活動日：2013年1月26日（土）14:00-15:30
場　所：四谷駅前のカフェ
参加者：麻生陽平氏、川路崇博氏、姜理恵氏、西浦和樹（50音順）
議　題：若手の会のメンバー紹介、メール会議での情報共有、今後の活動方針など。

学際融合、産学（もしくは産官学）連携の新たな研究の創出を目指して、日本創造学会若手の会が活動を開始しました。若手メンバーは、創造性という古くから議論されているテーマを現代風に再構築してとらえ、それによって新しい価値観を手に入れることに関心を抱いて、四谷駅前のカフェに集結しました。

日本の創造性コミュニティの代表機関として、若手の会では創造性に関する重要事項を議論し、学会内外に今日的課題の解決を図るための情報収集・情報共有・情報発信を行うことをミッションとして持続可能な活動を目指します。

実際に、創造性に関する重要事項とは、どのような内容を含むのでしょうか。ここでは、国際理解、環境、教育、福祉、健康、高度先端技術などの重要事項、あるいは震災からの復興などの社会問題や企業における実践、イノベーションを中心として幅広い話題について議論する場を提供します。

参加対象者は、創造性とは何か、創造技法、所属組織・チームの創造性、創造性支援システムの開発、創造性を高める教育プログラム開発などに関心のある方とします（つまり、自称若手で、意欲的に参加するのであれば、どなたでも出入り自由です）。

今のところ、現状把握を行い、形式にとらわれず活動して行くことを確認しています。

定例会を開催し、学会活動やHP、Facebookなどを活用して成果報告を行います。

また、若手の会での関心事項を電子書籍にして公開することも検討しています。

カフェ後の研究会では、慶応大SDMの前野教授によるシステム思考の世界的潮流についての刺激的な講演会を拝聴しました。その後の懇親会では、同大の白坂氏、水嶌氏が加わり、新旧学会メンバーが入り乱れて意見交換を行いました。

今後の活動に際して、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

懇親会会場での若手の会メンバー（左から、麻生陽平氏、川路崇博氏、姜理恵氏、西浦和樹、水嶌友昭氏、白坂成功氏）

経営関連学会協議会／第5回シンポジウムへの誘い

理事　高橋　誠

本協議会は日本学術学会に所属する60の経営関連学会が、経営学の発展を意図して結集した団体で、日本創造学会も加盟しており、高橋が理事を、徐理事長が評議員を務めています。経営関連学会協議会では、毎年シンポジウムを開催しており、創造学会の会員の皆様に御参加いただきたく、ご案内致します。

テーマ：「経営学に何を期待するか！」

行政は、産業界は、経営学の近接学会は『経営学』に何を求め、なにを期待するのか。本シンポジウムは、このテーマを語り合う会です。まず「経営学に何を期待するか」を、大学改革を推進する文科省の松坂先生、会計学の重鎮・平松先生、そして日本産業の創業者・渋沢栄一の子孫で、若手経済人の渋沢健先生に語ってもらいます。その問題提起を元に、会場からの意見も含め活発な議論を進めます。

●日時：3月10日（日）午後2時から午後5時30分）
●場所：明治大学リバティタワー2階1022教室　（千代田区神田駿河台1-1）
●講師：　行　　政　　：文科省　高等教育局大学振興課 大学改革推進室長 松坂浩史先生
　　学会（会計学）：関西学院大学学長　平松一夫先生
　　企　　業　　：コモンズ投信会長／公益財団法人日本国際交流センター理事長　渋沢健先生
●内容　・開会の辞：平野副理事長
　　・ シンポジウムの狙い：野々山理事長
　　・ 進行司会挨拶：高橋理事
　　・ 「経営学への期待」各講師の講演
　　・ パネルディスカッション
　　・ 閉会の挨拶：風間理事

◆2013年国際会議(追加情報)の予定と連絡先◆

国際担当理事:樋口健夫

【注意点】
参加をご希望の方々の海外の主催者へのご連絡は、それぞれご自身にて直接連絡を取っていただく必要があります。また、これらの会議の内容、予定は、変更、順延、キャンセルもありえますので、ぜひともご自身の責任において内容のチェック、ご確認、費用の支払い、ご出席のほどをお願い申し上げます。

(１) KES2013
(KES2013は北九州で開催されます)
17th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems
日程:9, 10, 11 & 12 September 2013, Kitakyushu, Japan
詳細:http://kes2013.kesinternational.org

(２) The 10th Annual Florida Creativity Weekend Comes to Sarasota March 1-3, 2013
「第10回フロリダ創造性ウィークエンド」
日程:3月1－3日
主催:[アメリカ]フロリダ創造性連合会(The 10th Annual Florida Creativity Weekend Comes to Sarasota March 1-3, 2013)
場所:サウスフロリダ大学　　詳細: http://www.flcreativity.com/

(３) Creative Thinkers Conference
主催:デザインフレーム社
場所:[サウジアラビア]ドバイ　詳細: http://creativethinkersdubai.com/

(４)「文化の融合と創造産業フォーラム」
日程:4月13－15日
主催:[中国]マカオ市立大学・遼寧大学　ホームページ　無し
場所:マカオ国際貿易センター

(5)CREA 2013
「国際創造性とイノベーション会議」
日程:4月17－21日
主催:イタリア創造性協会
場所:セストリレバンテ　　詳細: http://www.creaconference.com/en/crea-2013/

(6) 2011 NZ Creativity
「ニュージランド創造性チャレンジャー」
日程:4月27－28日
主催:ニュージランドクリエイティブ社
場所:西タラナキ工業大学　　詳細: http://www.nzcreativity.co.nz/

(7)2013 ICOI Conference
「組織のイノベーション国際会議　2013」
日程:7月2－4日
主催:国際組織のイノベーション協会
場所:[タイ・バンコック]Suan Sunandha Rajabhat大学　　詳細:http://www.iaoiusa.org/2013icoi/

(8)ACM
ACM SIGCHI Creativity and Cognition 2013
日程:17th-20th June, 2013,
場所:Sydney, Australia. University of Technology, Sydney
詳細: http://cc13.creativityandcognition.com

(9) SUSTAINABLE INNOVATION 2013
「第18回持続可能な製品デザイン国際会議」
日程:11月4-5日　主催:[イギリス]創造芸術大学持続可能なデザインセンター
場所:サリー州エプソム　詳細: http://cfsd.org.uk/

書籍紹介

※このコーナーでは、日本創造学会会員の著作を紹介致します。

著作名：Kindai Management Review（創刊号）
近畿大学経営イノベーション研究所[編]
丸善出版2013年2月刊行　本体価格3,000円　ISBN 978-4-86345-160-5 C3034
（ご注文・お問合せは丸善出版（株）書籍営業部まで　03－3512－3256）
日本初の英文経営誌　「Kindai」=「近畿大学」=「近代」。
「近大マグロ」をご存知でしょうか？近畿大学水産研究所が完全養殖に成功したマグロのブランド名です。近畿大学では研究成果の社会貢献を意欲的に展開していますが、本誌もその試みの一つです。テーマはかつて世界中で絶賛された日本企業の経営手法。バブル崩壊以来色あせた感がありますが、依然、注目すべき革新性や成功例は数多くあります。本誌においてはそうした日本型経営を内外有数の経営学者がさまざまな視点から切り込んでいます。将来的には年4回の季刊に繋がる創刊号として、このたび刊行のはこびになりました。経営学の「近代」を拓く一大チャレンジです。研究者、ビジネスマン他、日本型経営の学術面に関心のあるすべての方にお勧めします。

著作名：情報分析と課題解決の技法　大学教育出版　価格　¥1,260　（税込）
著　者：北門達男・稲浦綾　共著
本書で扱う情報分析は文字情報の分析を行うものである。また、課題解決技法は基本的なものと筆者らが仕事や研究を進めていく上で有効活用できるものを集めた。大学生やビジネスマンが将来にわたって仕事や私生活で活用できるものばかりである。例えば、図解技法やマインドマップの活用だけでも知的生産性を大幅に向上できるだろう。情報分析力や課題解決（アイデア発想）力は、手順や技法を修得すれば誰でも伸ばすことのできるものである。情報分析や課題解決というテーマを追い続けていくと、記憶・潜在意識・創造性という脳科学や認知心理学的な範囲まで研究分野が広がり、脳の働きが密接な関係にあることがわかる。そこで、「脳のしくみを知ろう」というテーマを追加した。
構成は以下の通りである。
1.脳のしくみを知ろう、2.図解技法の基礎、3. 80対20の法則、4.マトリックス・フレームワーク思考、5.問題とは、6.問題解決の基本ステップ、7.ブレーンストーミング、8.オズボーンのチェックリスト法、9.NM法、10.親和図法、11.特性要因図、12.ストーリー法、13.3の思考法、14.マンダラート、15.マインドマップ

2012年度論文誌の発送と推薦投票について

会員の皆様のご協力により、2012年度日本創造学会論文誌Vol. １６が発刊の運びとなりました。近日中に会員の皆様のお手元に発送致します。メール便（ポスト投函）での発送となります。転送はされませんので、住所変更のある方は事務局までお知らせ下さい。
（2012年度の会費未納の方には発送されません。）

【論文賞推薦用紙について】

論文誌に同封して、正会員の方に2012年論文誌の論文賞投票用紙を同封致します。（学生会員の方には投票権はありません）
掲載された論文の中から、独創的で学術的な価値があり、日本創造学会論文賞にふさわしいと思う論文２編を選び、推薦して下さい。推薦理由は、できるだけ詳しく記載して下さい。

【投票方法】 事務局への郵送・FAXまたはPDF化してメール添付で送信

【推薦投票の締め切り】 6月末
投票結果は学会賞委員会がとりまとめ、投票結果を参考に審議し、論文賞を決定します。
学会賞委員は、表彰担当理事が推薦し理事会承認を得て構成されます。
論文賞受賞者は2012年度研究大会中の学会賞表彰式にて表彰されます。

2013年度学会賞委員
徐方啓、櫻井敬三、弓野憲一、奥正廣、國藤進、高橋誠 、柴山盛生、澁谷貞子、樋口健夫、
田村新吾、 西浦和樹、川路崇博、澤泉重一、佐藤道子

◆◆◆新入会員紹介◆◆◆

（個人情報が含まれるため、Web版では削除いたしました）

◆役員人事◆

2013年1月26日の理事会において、2名の任命理事が選出されました。今回選出された任命理事は現理事会の残任期中、学会運営に参加します。（任期:2013年1月－2013年12月）

任命理事:西浦和樹（所属:宮城学院女子大学）
任命理事:川路崇博（所属:大月市立大月短期大学）

年会費納入のお願い

2013年度の会費納入の書類を3月中に発送させていただきます。大会発表、著作賞エントリー、論文投稿などは会費が完納であることが条件となっております。より充実した学会活動を展開するためにも、納入忘れのないよう、お願い申し上げます。

なお、論文誌16号（2012年度版）は、2012年度会費を納入している方のみに送付させていただいております。論文誌が未到着の方は事務局までお問い合わせ下さい。

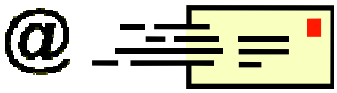
未納会費の振込は下記の口座にお願い致します。

お知らせください

年度がわりにともなう、住所・所属・連絡先・メールアドレス等の変更がある方は、学会事務局まで変更をお知らせ下さい。

ニューズレターや各種セミナー、研究会等のお知らせは、すべて電子メールで配信されております。

登録アドレスは、皆様に有用な情報をお届けする窓口となっておりますので、よろしくお願い致します。



●日本創造学会年会費納入先口座●

ゆうちょ銀行（金融機関コード9900） 店番019 店名 019店（ゼロイチキュウ店）
当座 0126409 ニホンソウゾウガッカイ

事務局メッセージ

本年度の研究大会は埼玉県にある日本医療科学大学で開催されます。今回の大会テーマにある、思草「しぐさ」とは、「思いと行動はもともと一つである」という意味を持つそうです。思いだけでもダメ、行動だけでもダメ、思いと行動が一致して、初めて意味を成す、ということです。 （事務局：比嘉）

日本創造学会 ニューズレター
2013年2月発行（№1）
日本創造学会事務局
発行人 ：徐方啓
編集担当：比嘉由佳里
〒272-0015 千葉県市川市鬼高
4－7－6－816
Tel 080－3465－6152
Fax 047－314－6380
e-mail：jcs@soken-ri.co.jp